

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：東広島市立福富中学校区

連携地域を構成する学校

| 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 |
|------------|-----|-------|
| 東広島市立福富中学校 | 3 | 46 |
| 東広島市立福富小学校 | 7 | 95 |

(R5.1.2.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

研究テーマ：福富の地域に誇りを持ち、自分の生き方を考える
児童・生徒の育成

～地域における探究活動と協働的な学びを通して～
自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で、心のよりどころとなり、生きる上での精神的な支えとなる。地域での様々な人たちとの出会いや体験は、児童・生徒にとって人生の土台となり、自らの人生を考える時に大きな役割を果たす。福富という地域には、起業家や移住者が多く、魅力的な場所も数多く存在する。この豊かな地域を活用し、様々な人と出会い、思いや考えを知ることで、学びが深まるとともに、自分と地域・社会との関わり方を見つめ直すことができるのではないかと考える。

(2) 資質・能力の設定について

『探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業』の1年目に、本校の「児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力」である「主体性・協働性」についてルーブリックを作成した。2年目、3年目は、それぞれ前年の実施状況を踏まえて設定した資質・能力の妥当性について検討・協議を重ね、改訂案を作成した。

| | 協働性 | レベル | 主体性 | |
|--------|---|-----|---|--------|
| 責任 | 役割をもち、最後までやり抜こうとしている。 | 1 | 課題について、自分の意見を持ち、前向きに取り組もうとしている。 | 肯定的思考 |
| +共感 | 他者の意見を聞き、自分の意見と違った場合でも、そのよさを認め、共感しようとしている。 | 2 | 目的をもって学習に取り組もうとしている。 | +目的意識 |
| +メタ認知 | 他者の意見と自分の意見を比較し、よりよい考えを選択しながら課題解決に取り組もうとしている。 | 3 | 課題解決に向けて、見通しをもち、自分で目標を立てながら学習に取り組もうとしている。 | +見通し |
| +特徴的活用 | 自他のよさを生かしながら、協力して課題解決に取り組もうとしている。 | 4 | 課題解決に向けて、自らさまざまな視点で考えようとしている。 | +広い視野 |
| +合意形成 | 議論をすることによって、合意形成を図ろうとしている。 | 5 | 設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、結論を導き出そうとしている。 | +思考の手探 |

ルーブリックに記載した資質・能力は、抽象的な表現が多く、授業中に表れる児童・生徒の具体的な姿ではない。授業中に児童・生徒の資質・能力を適切に見取るために、ルーブリックで設定した資質・能力が表れた具体的な姿を想定して、学習指導案に記載するよう工夫した。

(3) 取組について

①目指す資質・能力（主体性・協働性）ルーブリックについて（前項）

②児童・生徒への目指す資質・能力の提示、カリキュラム・マネジメントについて

1年目の取組では、「児童・生徒にルーブリックの評価項目を明示していないため、指導者の見取りたい部分と振り返りの記述にずれが生じる。」という課題があった。いくら教師側がルーブリックを作成し、児童・生徒の評価へ生かそうとしても、児童・生徒が意識をしながら学習に臨んでいなければ、振り返りの視点

にずれが生じ、見取りは難しい。そこで、2年目は、図のような掲示物を作成した。



「知識・技能」以外の「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」に関わる8つの評価項目について、児童・生徒に伝わるような言葉に変え、授業

で提示した。授業の導入部分で伸ばしたい力について児童・生徒と共有したり、終末部分でどのような力が伸びたかについて振り返ったりさせることで、児童・生徒自身も「付けたい力」を意識しながら学習に臨めるよう工夫を図った。

③福富型協働的な学び

本校における探究的な学習における取組の特徴として、異学年や地域との学びという福富型の協働的な学びが挙げられる。小中一貫教育を生かした異学年集団や地域の人々との協働を通し、探究的な学習に取り組んできた。

ア 異学年での協働的な学び

小1・2学年、小3・4学年、小5・6学年、中1・2学年で異学年集団を作り、協働的な学習を行った。国立教育政策研究所生徒指導研究センター「子供の社会性が育つ『異年齢の交流活動』—活動実施の考え方から教師用活動案まで—」によると、効果の高い異学年交流のための留意点は、④「活動自体が楽しみ」であり、誰かへの命令された「仕事」ではないこと、⑥「主体的に参加し、主体的に役割を担い、その大切さを実感する場」であること、⑩長期にわたって継続するものであること、という3点であった。この留意点を意識して活動を行えば、異学年での協働的な学びは、児童・生徒の協働性のみならず、主体性の育成にもつながる。この点を踏まえ単なる異学年交流ではなく、効果の高い異学年交流にするためには、教師側から「与えられた」のではなく、児童・生徒自らが課題と感じ、解決しようと試行錯誤できる学習テーマが必要であった。そこで、児童・生徒にとって最も身近である「地域」に目を向けて学習課題を設定することとした。

イ 地域との協働的な学び<イメージマップの活用>

地域を題材とした学習課題を設定する際、イメージマップを活用して検討を行った。小1学年から中3学年まで同じ形のイメージマップを使用し、児童・生徒が地域に対してどのように感じているのかを実態把握した。それぞれが地域のよさと感じていること、地域に対して思っていることを把握することで、異学年集団の実態に合ったテーマを設定することができた。また、学校重層協議会と連携し、様々な分野の地域の方と協働ができる仕組みを整えた。地域行事や学校行事等も生かしながら、異学年での学び、地域との学びを行った。

本校では、各学年ブロックで「単元ストーリー」を作成している。学習活動の流れをまとめたストーリーを可視化することで、教職員間で連携ができ、同じ視点で児童・生徒の資質・能力の育成に寄与していくことにつながっていくものと考えている。特に導入部分と終末部分において工夫をしている。福富小・中学校では、異学年集団で総合的な学習の時間を行っている。そのため、児童・生徒は同じテーマの単元を2度経験することになるが、ここを利点と考え、成果や課題を引き継いでいく単元構成に変更した。上の学年は、昨年度の課題を踏まえたうえで学習に入るため、「今年度はこうしたい。」という思いをもつ。また、下の学年は上の学年からの思いを聞くことで、「自分たちもやってみたい。」という思いへとつながることができる取組となっている。

【夢の実現プロジェクト 単元ストーリー】 福富小学校第5・6学年

| 単元 | 単元 | 単元 |
|---|---|---|
| <p>① 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> <p>② 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> | <p>③ 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> <p>④ 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> | <p>⑤ 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> <p>⑥ 昨年度の学習内容を振り返り、今年度やりたいことを考える。今年度学びたいことを決める。</p> |

単元の導入では、上の学年が、昨年度学習した内容や成果と課題、今年度やりたいことや思い等を下の学年へ伝える時間を設ける。

単元の終末では、今年度の成果と課題、次年度でやりたいことなどを下の学年がまとめ、引き継ぐための準備をする時間を設ける。

④学校運営協議会を生かした学習支援体制の工夫

地域を題材とした単元を構成する際、どのような人材が地域にいるのか分からないという壁にぶつかり、教職員の力のみで地域のことや関わる人材を把握することに難しさを感じた。そこで、学校運営協議会委員の協力を仰ぎ、地域で活動されている様々な専門の方々に声をかけていただき、地域人材バンクを作成した。児童・生徒は人材バンクを活用したり、学校運営協議会を窓口にしたりして取材・協力の依頼を行うことができた。地域と協働できる仕組みを作ることで、児童・生徒に豊かな教育環境を作ることができている。また、コミュニティ・スクール推進員や地域学校協働活動推進員が学校と地域との連携の橋渡しになるような活動を行うことで、スムーズに地域と連携をすることができた。



⑤学びの可視化

研修や研究推進通信、研究授業等を通して、各学年ブロックの取組の概要は分かっているが、児童・生徒の学習の進捗や様子が見えなかったため、研究3年目の本年度は、「探究ロード」の取組を進めている。この探究ロードは、常に同じ展示をする場所ではなく、進捗状況に合わせて変化をしていく掲示板である。掲示するだけでなく、児童・生徒が「見てほしい」と思ったもの等も設置できるようにすることで、主体的に学ぶ意欲の向上につながり、児童・生徒、教員も活用できる場となっている。



2 実践事例

- 小学校1年生「ふくしょうちょうさい」
- 小学校2年生「ふくとみちょうさい」
- 小学校3・4年生「とも（共・友）にいきる（生・活）」
- 小学校5・6年生「夢の実現プロジェクト」
- 中学校1・2年生「福富に住もう」
- 中学校3年生「『福富提言』～福富のよりよい未来を考える～」

※主体性と協働性についての児童・生徒の変容に関する資料については、「【東広島市】福富小・中学校資質・能力変容資料」として提出。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

研究の成果として、次の2点が挙げられる。

1点目は、児童・生徒の成長である。探究課題に取り組む主体的な姿勢や、異学年や地域と積極的に関わり、自他を生かす協働的な活動、地域への理解の深まりがうかがえるような具体的な解決策の立案など、様々な場面で児童・生徒の成長を見ることができた。特に、「福富町」を中心に据えたイメージマップでは、記入する項目の量が増え、その項目同士のつながりが見えるようになった。そして、複数の視点から地域の特色を捉えた記述が増え、客観的な視点をもつことができるようになった。また、探究的な学習の場面だけでなく、学習意識調査の結果からも主体性、協働性、地域への参画の思いが高まっている様子が見えてきた。このような児童・生徒の変容は、小・中学校で共通認識をもち、系統的な取組を行ってきたことが大きな要因ではないかと考える。具体的には、9年間の系統的な資質・能力の段階を設定したルーブリックの開発と見直し、設定した資質・能力が表れた具体的な児童・生徒の姿の共有、導入時の工夫、異学年集団での活動や地域との協働、ファシリテートの研修、学習過程の可視化として「探究ロード」の設置などである。

2点目は、地域との関わりが深くなり、学習支援体制が確立されたことである。本校では学校運営協議会を窓口として、児童・生徒の探究活動の内容に協力していただけるよう地域の方と連携を行ってきた。この連携によって、より実効性の高い解決策を見いだしたり、地域の思いを取り入れた活動を行ったりすることができた。また、地域から協力をいただくだけでなく、児童・生徒の頑張りを見た地域の方が児童・生徒から元気をもらって奮起し、地域も変わっていくという双方向でのつながりが見られるようになった。この児童・生徒の社会参画は、自分たちの取組が社会を変えていくことができるという自信になり、次の探究活動への意欲につながっている。本校の学校運営協議会は「子供のやりたいことを応援する」というスタンスで協力していただいている。このことにより、豊かな教育環境の中で、児童・生徒は自ら課題を見つけ、安心して探究を進めることができています。

(2) 課題及び今後の改善方策等

今後も取り組むべき課題として、次の2点が挙げられる。

1点目は、充実した探究的な学習を行うためのカリキュラム・マネジメントである。質の高い探究的な学習を進めるためには、授業時間を確保することが必要である。総合的な学習の時間を単独で活用するのではなく、各教科や学校行事と関連付け、学校の教育課程全体を有機的に結びつけたカリキュラムを確立する必要がある。グループごとに全く異なる課題を探究する場合は、各教科との関連付けが難しい。共通する部分でくったり、大テーマで方向性を絞ったりすることで他教科との関連付けが可能になることもあり、引き続き検討を重ねていきたい。

2点目は、次年度以降も持続可能な単元の開発や組織の構築をすすめることである。教職員の異動があっても、地域と根差した探究活動であり持続可能なのではないかと考える。そのため、継続して単元の見直しを進めることや、学校運営協議会を窓口とした、地域との連携体制を維持していくことが重要ではないかと考える。また、児童・生徒だけでなく、教職員自身が探究していく姿勢を継続していく必要がある。